

武士はどのよう^な暮らし
をしていたのか。

前回の復習

資P56 武士はどのように始まったのか調べます。

9 武士のおこりと源平の戦い

めあて 武士はどのように力をつけ、源平の戦いはどのような結果だったのでしょうか。

1 源氏と平氏の戦い(源平の戦い)

資料ウオッチ

義経の進路(平泉～壇ノ浦)に色をぬろう。



1185年3月 壇ノ浦の戦い ●源氏×●平氏

はじめは平氏軍が優勢でしたが、潮の流れが変わると源氏軍が優勢となり、やがて平氏の一族は海に身を投げ、滅びました。

1185年2月 屋島の戦い ●源氏×●平氏

源義経は風雨の強い夜、油断していた平氏を攻めて破りました。那須与一が弓で扇の的を射た話が有名です。

1184年2月 一ノ谷の戦い ●源氏×●平氏

源義経が、きりたった急なかけを馬でかけ下り、平氏軍を背後からおそいました。

1183年5月 倶利伽羅峠の戦い ●源氏×●平氏

源義経は、角にたてまつつけた数百頭の牛を平氏軍に向けて放し、勝利したといわれています。

力を強めた源氏と平氏は、どうなっていたかな？

1180年8月 石橋山の戦い ●源氏×●平氏

平氏をたおす兵をあげた源頼朝でしたが、敗れて安房(千葉県)に逃れました。その後、頼朝は鎌倉で態勢を立て直しました。

1180年10月 富士川の戦い ●源氏×●平氏

夜中に水鳥がいつせいに羽ばたいたのを、源氏の奇襲とかんちがいた平氏は、戦わずに逃げてしまいました。

貴族と同じやりかたで政治を行った平氏に対して不満が高まり、源氏は1180年に平氏をたおす兵を挙げました。源氏は各地で平氏を破り、1185年に源義経が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼしました。

2 武士のおこり

- 1 地方の豪族や有力な農民らが、土地を広げ、力を持つようになる。
- 2 土地や収穫物をめぐり豪族同士の争いや役人との争いが激しくなる。
- 3 自分たちの土地を守るために武装して武芸にげみ、対抗するようになる。
- 4 源氏や平氏などを棟梁として、武士団が成立し、力をつける。

3 平清盛と厳島神社(広島県廿日市市)

わたしは、貴族どうしの争いの中で力を強めました。むすめを天皇のきさきにして、朝廷でも強い力を持ちました。

平清盛

厳島神社

平清盛は1167年に太政大臣となり、武士として初めて政治の実権をにぎりました。平氏一門は、厳島神社を守り神として信仰しました。

歴史調査隊

紅白の旗のルーツって？

運動会や紅白歌合戦などの「赤対白」のルーツは、源平の戦いからといわれています。源氏が白、平氏が赤の旗をかかげて戦いました。

源氏の白旗
平氏の赤旗

運動会の玉入れ

キーワード

源氏
11世紀中ごろ、地方の反乱をしづめて朝廷に力を認められ、関東地方に勢力をのびした。

平氏
12世紀初め、瀬戸内海の海賊をおさえて中国地方や瀬戸内海沿岸の地域に勢力をのびした。

武士団
一族のかしらを中心とした武士の集団。争いごとの解決に武力が必要となった天皇や貴族に、やとわれるようになった。

まとめ

- 1 地方の有力な豪族や農民の中から [] がおこり、自分の土地を守るため武装して力をつけた。
- 2 源平の戦いでは [] が各地で平氏を破り、1185年に源義経が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした。

< 武士のおこり >

① 自分の土地を守るために武装する。

② 大きな武士団となる。

天皇や貴族は、**武士を呼んで戦いにのぞんだ** 「保元の乱」

(兄) 崇徳上皇

不満

(弟) 藤原頼長

(父) 源為義

+ 弟たち

(おじ) 平忠正



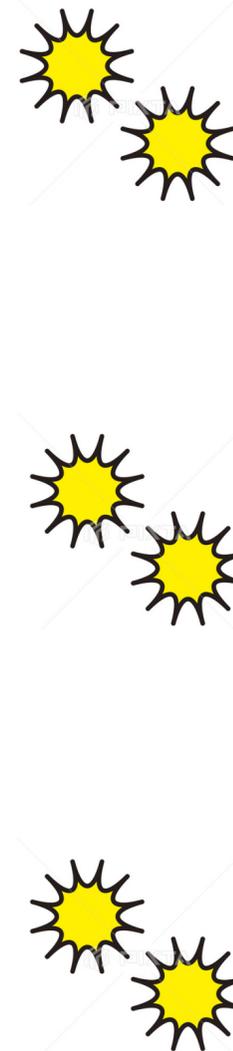
(弟) 後白河天皇

対抗

(兄) 藤原忠通

(子) 源義朝

(おい) 平清盛



天皇や貴族は、**武士を呼んで戦いにのぞんだ** 「保元の乱」

(兄) 崇徳上皇



不満

(弟) 藤原頼長



(父) 源為義

+弟たち



(おじ) 平忠正



(弟) 後白河天皇

対抗

(兄) 藤原忠通

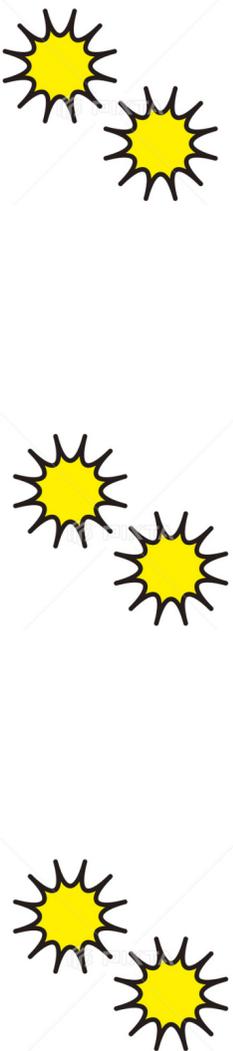


勝利

(子) 源義朝



(おい) 平清盛



< 保元 (ほうげん) の乱 >

天皇の後つぎ争い

保元の乱で、源氏と平氏は味方同士だった。しかし・・・

(兄) 崇徳上皇

不満

(弟) 藤原頼長

(父) 源為義

+弟たち

(おじ) 平忠正



(弟) 後白河天皇

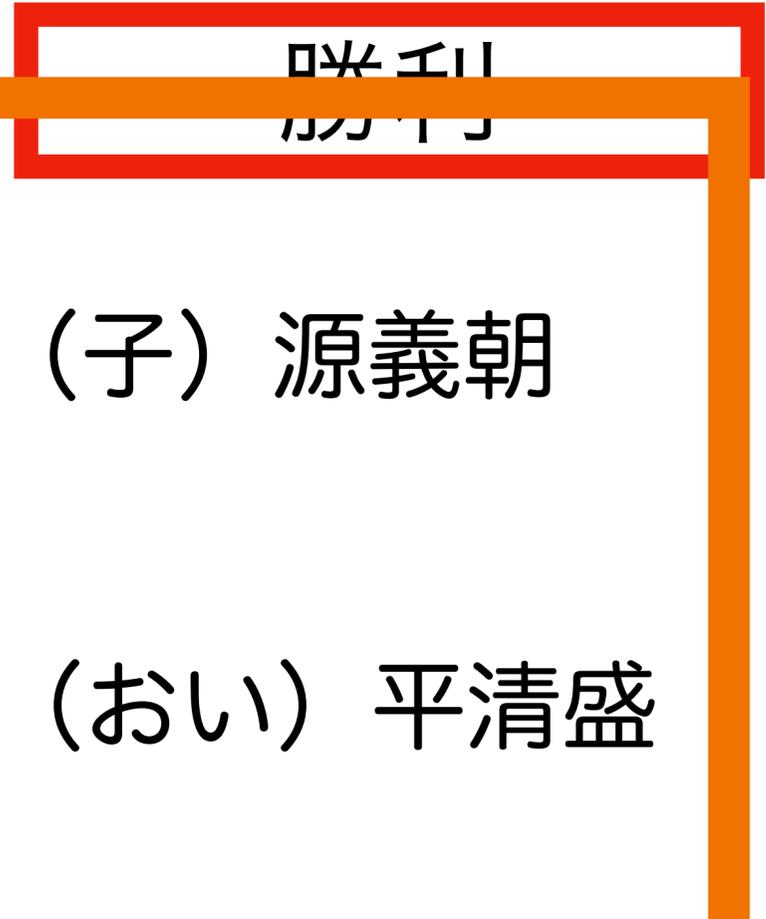
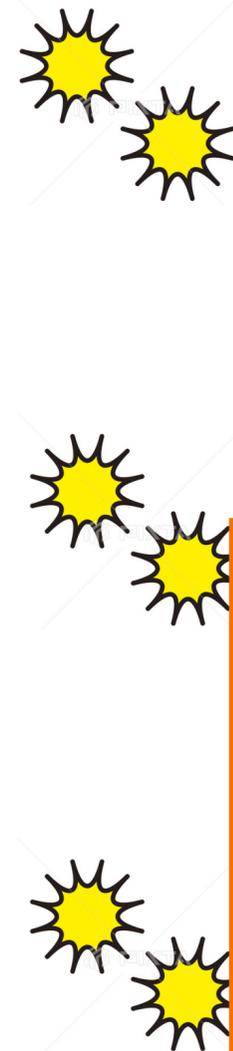
対抗

(兄) 藤原忠通

勝利

(子) 源義朝

(おい) 平清盛



後に源氏と平氏は争い合うことになる。
何があったと思いますか。



保元の乱で勝利した、源義朝と平清盛のその後。

源義朝



朝廷の 長官

平清盛



兵庫県 長官

保元の乱で勝利した、源義朝と平清盛のその後。

源義朝



平清盛



朝廷の■の管理をする長官

兵庫県南部を治める長官

保元の乱で勝利した、源義朝と平清盛のその後。

源義朝



朝廷の馬の管理をする長官

平清盛



兵庫県南部を治める長官

保元の乱で勝利した、源義朝と平清盛のその後。

源義朝



一緒に戦ったのに、この差は
どついついことだ！

平清盛

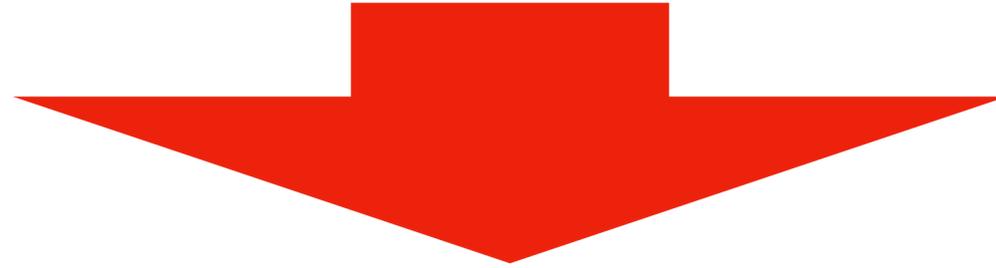


朝廷の馬の管理をする長官

兵庫県南部を治める長官

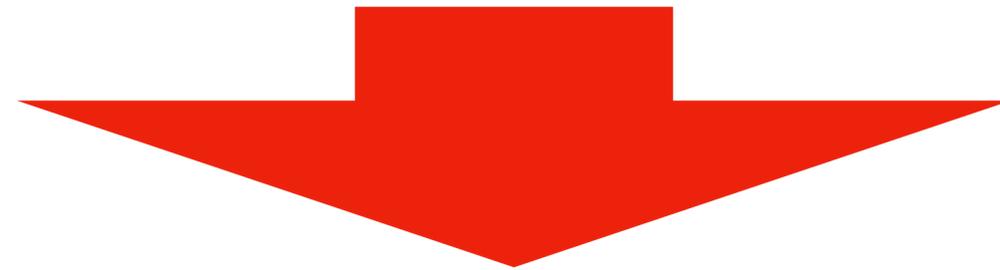
< 保元 (ほうげん) の乱 >

天皇の後つぎ争い



< 保元 (ほうげん) の乱 >

天皇の後つぎ争い



< 平治 (へいじ) の乱 >

保元の乱のほうびに不満をもった源氏が平氏と争う。

そして、清盛は義朝たちに勝利する

逃げた先で裏切られ、
殺される

源義朝

(不満をかかえている)



つかまるが、清盛の母
に殺すのを止められる

源頼朝【13歳】

(義朝の息子)



伊豆へ閉じ込められる

処刑

藤原信頼

(信西をよく思っていない)



平清盛

(信西を信頼している)



<平治 (へいじ) の乱>

保元の乱のほうびに不満をもった源氏が平氏と争う。

＜平治（へいじ）の乱＞

保元の乱のほうびに不満をもった源氏が平氏と争う。

- 平氏の勝利
- 源頼朝は伊豆へ流される。

平清盛は大きく力をつけていく



平清盛は大きく力をつけていく

平氏にあらざる
人にあらざる



平清盛のその後

シール



平 清盛

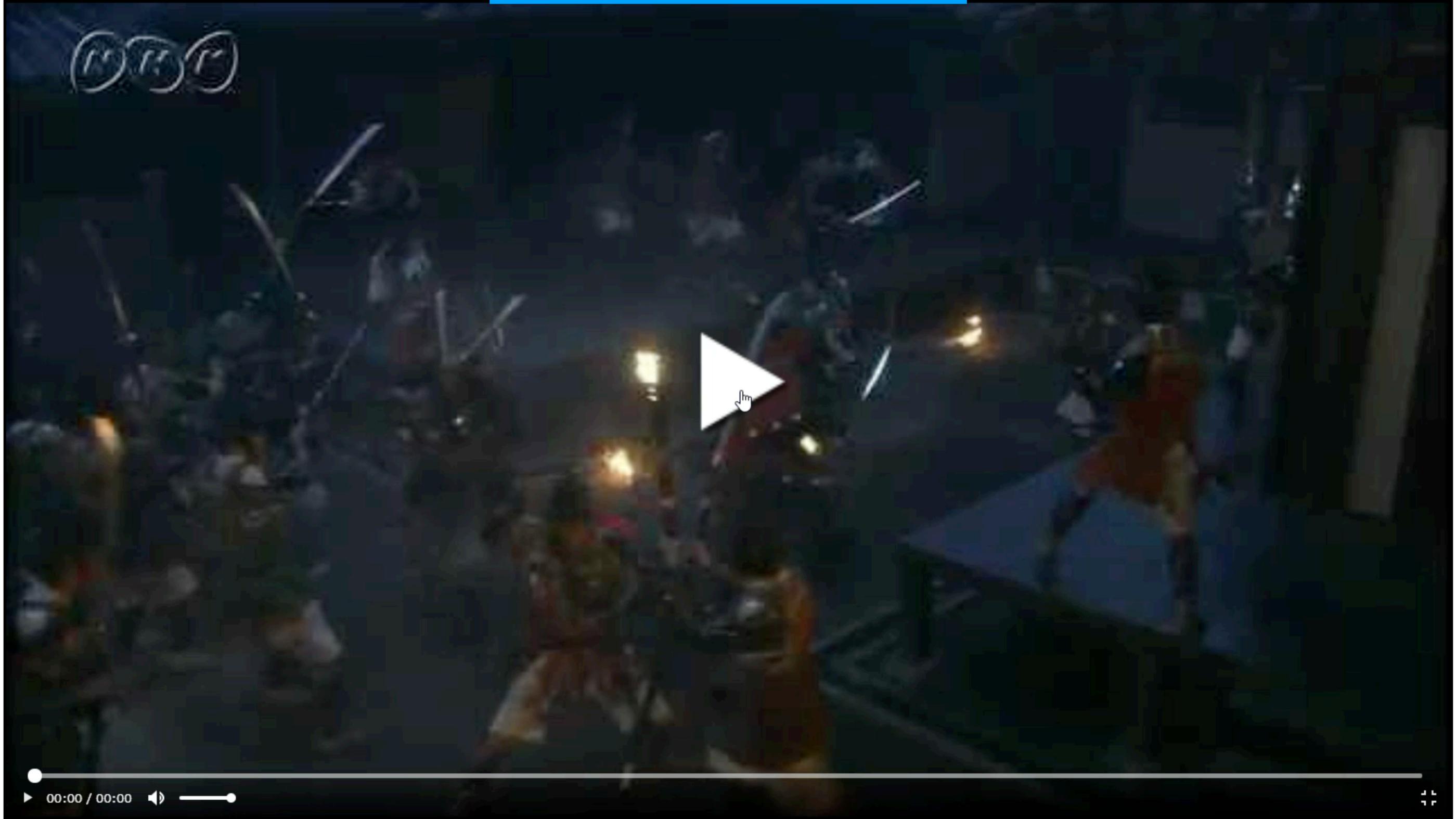
シール



平 清盛

- ①娘と天皇をけっこん
- ②武士初の太政大臣 (朝廷のトップ)
- ③厳島神社を大切にした。 (貿易)

平氏の栄華 (2分30秒)



▶ 00:00 / 00:00 🔊



源氏と平氏の争いはどのように進んでいったのか

源氏を倒し、平清盛は大きく力をつけていく

平氏にあらざる
人にあらざる



太政大臣になった清盛は、どんどん自分が政治をしようとする



太政大臣になった清盛は、どんどん自分が政治をしようとする



①後白河法皇を京都の館に閉じ込めて、政治をさせないようにした。

太政大臣になった清盛は、どんどん自分が政治をしようとする



- ①後白河法皇を京都の館に閉じ込めて、政治をさせないようにした。
- ②娘を天皇に嫁がせて、天皇の家族として力を持つとうとした。

太政大臣になった清盛は、どんどん自分が政治をしようとする



- ①後白河法皇を京都の館に閉じ込めて、政治をさせないようにした。
- ②娘を天皇に嫁がせて、天皇の家族として力を持つとうとした。
- ③平氏の一族を、政治の中心となる役人にした。

清盛の行動に対してどう思いますか。



- ①後白河法皇を京都の館に閉じ込めて、政治をさせないようにした。
- ②娘を天皇に嫁がせて、天皇の家族として力を持つようとした。
- ③平氏の一族を、政治の中心となる役人にした。

そのやり方に、次第に周りから反感がうまれる



- ①後白河法皇を京都の館に閉じ込めて、政治をさせないようにした。
- ②娘を天皇に嫁がせて、天皇の家族として力を持つようとした。
- ③平氏の一族を、政治の中心となる役人にした。

以仁王は清盛のやり方に不満をもち、清盛を倒そうとする

もちひとおう

以仁王

(後白河法皇の息子)



しかし、計画がバレて暗殺されてしまう

もちひとおう

以仁王

(後白河法皇の息子)



しかし、以仁王の最期の言葉が、源氏をふるい立たせる。

もちひとおう

以仁王

(後白河法皇の息子)



しかし、以仁王の最期の言葉が、源氏をふるい立たせる。

もちひとおう

以仁王

(後白河法皇の息子)

国々の源氏よ。
平氏を討て！



しかし、以仁王の最期の言葉が、源氏をふるい立たせる。

もちひとおう

以仁王

(後白河法皇の息子)

国々の源氏よ。
平氏を討てー！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く
しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く
しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

それなのに、出ることができた。

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く
しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

それなのに、出ることができた。

頼朝はどうして出ることができたか
と思いますか。

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く
しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

それなのに、出ることができた。

頼朝はどうして出ることができたか
と思いますか。

A :

B :

C :

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く

しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

それなのに、出ることができた。

頼朝はどうして出ることができたと思いますか。

A：仲間が助けに来た。

B：

C：

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く

しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

それなのに、**出ることができた。**

頼朝はどうして出ることができたと思いますか。

A：仲間が助けに来た。

B：警備のすきを見て逃げた。

C：

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く
しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

それなのに、**出ることができた。**

頼朝はどうして出ることができたと思いますか。

- A：仲間が助けに来た。
- B：警備のすきを見て逃げた。
- C：その他

平氏を倒しに行きたい！



源氏のリーダーである頼朝のもとにもその知らせが届く

しかし、頼朝は伊豆に見張りをつけられ閉じ込められていた。

それなのに、出ることができた。

頼朝はどうして出ることができたと思いますか。

A：仲間が助けに来た。

B：警備のすきを見て逃げた。

C：その他

平氏を倒しに行きたい！



北条時政

(頼朝の見張り役)



平氏を倒しに行きたい！

平氏を倒しに行きたい！



北条時政

(頼朝の見張り役)



北条政子

(時政の娘)



平氏を倒しに行きたい！



北条時政

(頼朝の見張り役)



北条政子

(時政の娘)



夫婦

頼朝は政子にお願いをした。結局、（父）時政も頼朝の協力者となった。

北条時政

(頼朝の見張り役)



北条政子

(時政の娘)



夫婦

平氏を倒しに行きたい！



シール

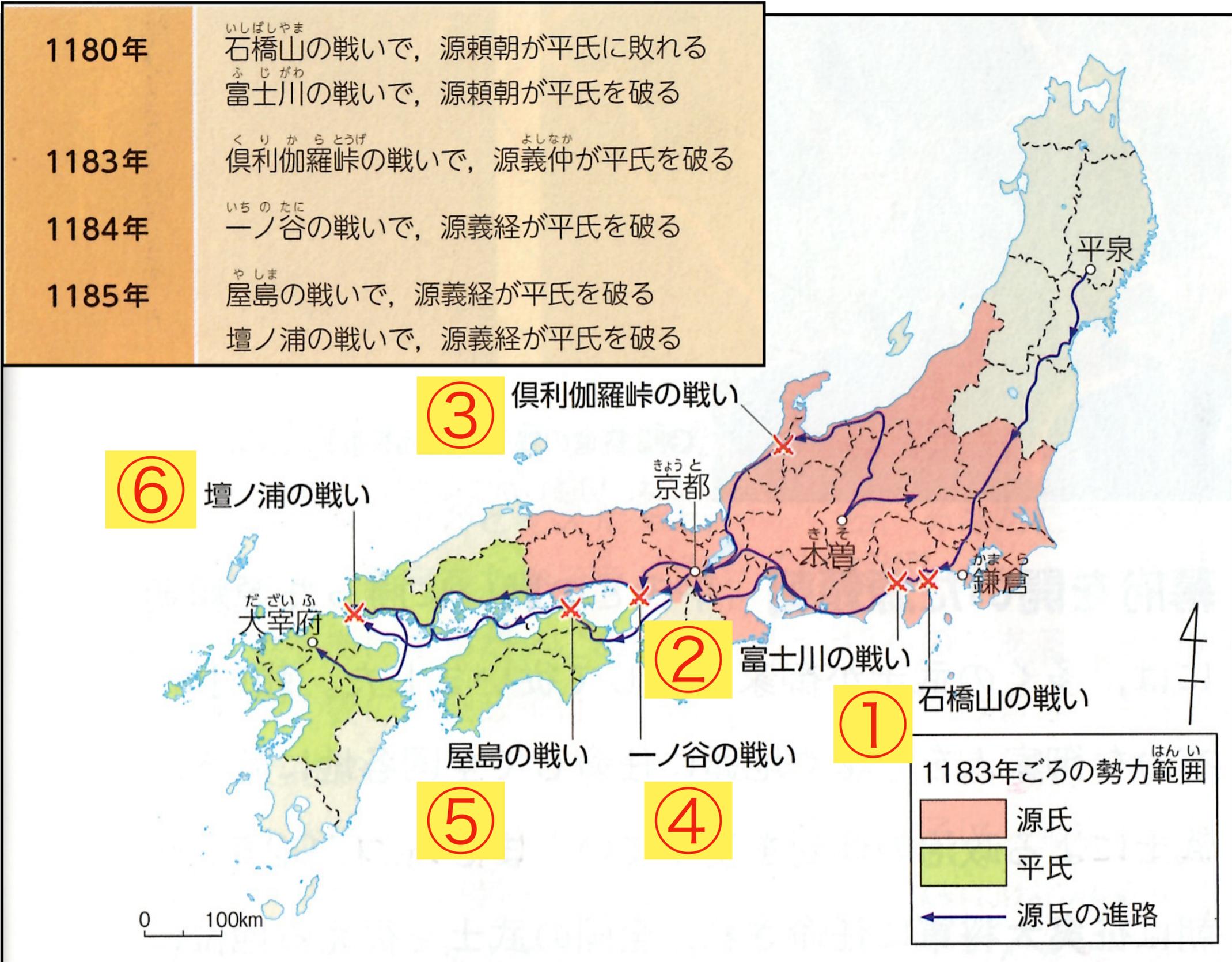
源頼朝

平氏と戦を始める



みなもとの よりとも
源 頼朝

源氏と平氏が戦った場所



1180年 富士川の戦い



源氏と平氏は戦わずに終わった

平氏軍は、音を敵とかんちがいして、逃げてしまった。

1180年 富士川の戦い



源氏と平氏は戦わずに終わった

平氏軍は、[redacted]音を敵とかんちがいして、逃げてしまった。

1180年 富士川の戦い



源氏と平氏は戦わずに終わった

平氏軍は、水鳥が飛び立った音を敵とかんちがいして、逃げてしまった。

富士川の戦いのあと、頼朝は生き別れていた兄弟と偶然再会する

源頼朝



富士川の戦いのあと、頼朝は生き別れていた兄弟と偶然再会する

源頼朝



(弟) 源義経



富士川の戦いのあと、頼朝は生き別れていた兄弟と偶然再会する

義経は幼い頃岩手県においやられていた。そこから関東までできていた。

源頼朝



(弟) 源義経



富士川の戦いのあと、頼朝は生き別れていた兄弟と偶然再会する

義経は幼い頃岩手県においやられていた。そこから関東まできていた。

源頼朝



力を合わせて戦おう

(弟) 源義経



シール

源義経

源氏軍に合流する



みなもとの
源 義経

義経は、相棒の武蔵坊弁慶と共に戦で活躍をする



1181年 平清盛は

平氏にあらざれば
人にあらざらん



1181年 平清盛は病気により64歳で亡くなる

平氏にあらざる
人にあらざる



1183年 倶利伽羅峠（くりからとうげ）の戦い



■ にたいまつ作戦

平氏軍は、次々と谷底へ落ちた。

1183年 倶利伽羅峠（くりからとうげ）の戦い



牛の角にたいまつ作戦

平氏軍は、次々と谷底へ落ちた。

1184年 一ノ谷の戦い



■ をかけ降り作戦

平氏軍は、意表をつかれ敗れる。

(義経の作戦)

1184年 一ノ谷の戦い



がけをかけ降り作戦

平氏軍は、意表をつかれ敗れる。

(義経の作戦)

1185年 壇ノ浦の戦い（最終戦）

水上での戦い

平氏軍は、次々と降参。
清盛の妻は、幼い孫とともに自ら海へ。



1185年 壇ノ浦の戦い（最終戦）

三種の神器

やたのかがみ

八咫鏡

くさなぎのつるぎ

草薙剣

やさかにのまがたま

八尺瓊勾玉



1185年 壇ノ浦の戦い（最終戦）

三種の神器

やたのかがみ

八咫鏡

くさなぎのつるぎ

草薙剣

やさかにのまがたま

八尺瓊勾玉



代々天皇家に伝わる
三種の神器も海へ。

1185年 壇ノ浦の戦い（最終戦）

三種の神器

やたのかがみ

八咫鏡

くさなぎのつるぎ

草薙剣

やさかにのまがたま

八尺瓊勾玉



代々天皇家に伝わる
三種の神器も海へ。
「草薙剣」だけは
見つからなかったと
いう。

こうして平氏の天下は終わりを迎える



こうして平氏の天下は終わりを迎える



こうして平氏の天下は終わりを迎える

平家物語
冒頭



こうして平氏の天下は終わりを迎える

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。

平家物語 冒頭



こうして平氏の天下は終わりを迎える

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。
娑羅双樹の花の色、
盛者必衰の理をあらは(わ)す。

平家物語 冒頭



こうして平氏の天下は終わりを迎える

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。
娑羅双樹の花の色、
盛者必衰の理をあらは(わ)す。
おごれる人も久しからず、
唯春の夜の夢のごとし。

平家物語 冒頭



こうして平氏の天下は終わりを迎える

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。
娑羅双樹の花の色、
盛者必衰の理をあらは（わ）す。
おごれる人も久しからず、
唯春の夜の夢のごとし。
たけき者も遂にはほろびぬ、
偏に風の前の塵に同じ。

平家物語 冒頭



ここまでの感想を言いなさい

平家物語 冒頭



祇園精舎の鐘の聲、

諸行無常の響きあり。

娑羅双樹の花の色、

盛者必衰の理をあらは(わ)す。

おごれる人も久しからず、

唯春の夜の夢のごとし。

たけき者も遂にはほろびぬ、

偏に風の前の塵に同じ。

資P56 武士はどのように始まったのか調べます。

9 武士のおこりと源平の戦い

武士はどのように力をつけ、源平の戦いはどのような結果だったのでしょうか。

1 源氏と平氏の戦い(源平の戦い)

資料ウオッチ
 義経の進路(平泉~壇ノ浦)に色をぬろう。



1184年2月
 一ノ谷の戦い ●源氏×●平氏
 源義経が、きりたった急なかけを馬でかけ下り、平氏軍を背後からおそいました。

1183年5月
 倶利伽羅峠の戦い ●源氏×●平氏
 源義経は、角にたてまつつけた数百頭の牛を平氏軍に向けて放し、勝利したといわれています。

力を強めた源氏と平氏は、どうなっていたかな？

1185年3月
 壇ノ浦の戦い ●源氏×●平氏
 はじめは平氏軍が優勢でしたが、潮の流れが変わると源氏軍が優勢となり、やがて平氏の一族は海に身を投げ、滅びました。

1185年2月
 屋島の戦い ●源氏×●平氏
 源義経は風雨の強い夜、油断していた平氏を攻めて破りました。那須与一が弓で扇の的を射た話が有名です。

1180年8月
 石橋山の戦い ●源氏×●平氏
 平氏をたおす兵をあげた源頼朝でしたが、敗れて安房(千葉県)に逃れました。その後、頼朝は鎌倉で態勢を立て直しました。

1180年10月
 富士川の戦い ●源氏×●平氏
 夜中に水鳥がいつせいに羽ばたいたのを、源氏の奇襲と勘ちがいた平氏は、戦わずに逃げてしまいました。

貴族と同じやりかたで政治を行った平氏に対して不満が高まり、源氏は1180年に平氏をたおす兵を挙げました。源氏は各地で平氏を破り、1185年に源義経が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼしました。

2 武士のおこり



① 地方の豪族や有力な農民らが、土地を広げ、力を持つようになる。
 ② 土地や収穫物をめぐり豪族同士の争いや役人との争いが激しくなる。
 ③ 自分たちの土地を守るために武装して武芸にはげみ、対抗するようになる。
 ④ 源氏や平氏などを棟梁として、武士団が成立し、力をつける。

3 平清盛と厳島神社(広島県廿日市市)



わたしは、貴族どうしの争いの中で力を強めました。むすめを天皇のきさきにして、朝廷でも強い力を持ちました。



平清盛は1167年に太政大臣となり、武士として初めて政治の実権をにぎりました。平氏一門は、厳島神社を守り神として信仰しました。

歴史調査隊

紅白の旗のルーツって？

運動会や紅白歌合戦などの「赤対白」のルーツは、源平の戦いからといわれています。源氏が白、平氏が赤の旗を掛けて戦いました。

源氏の白旗
平氏の赤旗

運動会の玉入れ

キーワード Keywords

- 源氏**
11世紀中ごろ、地方の反乱をしめて朝廷に力を認められ、関東地方に勢力をのびた。
- 平氏**
12世紀初め、瀬戸内海の海賊をおさえて中国地方や瀬戸内海沿岸の地域に勢力をのびた。
- 武士団**
一族のかしらを中心とした武士の集団。争いごとの解決に武力が必要となった天皇や貴族に、やとわれるようになった。

まとめ

- 地方の有力な豪族や農民の中から がおこり、自分の土地を守るため武装して力をつけた。
- 源平の戦いでは が各地で平氏を破り、1185年に源義経が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした。

武士はどのような暮らしをしていたのか。

武士はどのような暮らしをしていたのか。

武士は、自分の土地を守るために武装して力をつけた。農村では、武芸にはげみ、都では、天皇や貴族の■をした。大きな武士団は、やがて貴族をしのごくほどの力をつけた。

武士はどのような暮らしをしていたのか。

武士は、自分の土地を守るために武装して力をつけた。農村では、武芸にはげみ、都では、天皇や貴族の警護をした。大きな武士団は、やがて貴族をしのごくほどの力をつけた。

＜授業の感想＞

ノートかロイロに書いて、
ロイロの提出箱に提出します。

「もっと知りたいこと」

「ぎもん」

「おどろいたこと」 など